



『プロフィール』

御堂筋法律事務所(大阪市)パートナー

1991年 同事務所に入所

1995年 コーネル大学ロースクール卒

1996年 ニューヨーク州弁護士登録

2003年 御堂筋法律事務所東京事務所に赴任。18年まで東京担当。
この間ワインやチーズの世界に目覚める。

日本ソムリエ協会ワイン・エキスパート

歴史能力検定協会・世界史1級

コロナの巧妙な攻勢が続き、移動や対談の設定が思うに任せぬ中、川崎さんは大阪、小生は東京。締め切りは緊急事態真っ盛りの2月中旬。リアルのインタビュー抜きを覚悟したインタビュー企画でした。

お人柄や魅力を読者にお伝えするこの欄。メールと電話だけで大丈夫か。強心臓の小生も、やや不安を抱えた着手でした。が、案ずるよりも産むが易し。やりとりは打てば響き、好奇心の塊のような、かつ爽やかな、川崎さんの生き様の一端をご披露出来ることとなりました。

そう思います。只々感謝です。

(文責=久保庭啓一郎・当会理事)

ワイン、チーズ、
花咲く会話。
皆々私の人格の
重要な一部です。

川崎清隆さん

(2011年度 シュヴァリエ叙任)

「自分にとってチーズとは何か」熟考した志望書

当会会則は前文を『日本支部が授与する騎士称号には名誉者としての誇りと責任が伴う』と締めくくっています。シュヴァリエ10年目をお迎えですね。

『10年前、入会申込書の志望動機欄。推薦者になっていただいた理事の森克明シェフから、これではあなたとチーズの関わり、思いが伝わらない。理事会にかけられません、と書き直しを求められました。このご指摘には目が覚めるような衝撃を覚えました。今思えばこの一喝は自分にとってチーズとは何かを熟考する良い機会となりました。それだけに叙任いただけるとのお知らせに飛び上がるほど喜んだことを良く覚えています』

チーズとワインの響き合いに新たな世界を発見

川崎さんは、国際派弁護士としても名高い方ですが、そもそもチーズとの出会いは? 海外生活ですか?

『東京事務所を開設するにあたって大阪から単身赴任しました。弁護士の単身赴任などは稀有なことで、皆さんからお気の毒ですと声をかけていただいたものです』

『当時はワインのコミックが流行っていました。友人からの影響もあって青山のワイン学校に通うことに。ですから、まずワインから入り、チーズと出会いました』